



2023年4月3日

各位

会社名 株式会社クレハ
代表者名 代表取締役社長 小林 豊
コード番号 4023 (東証プライム)
問合せ先 経営企画部 IRグループリーダー
小川 隆之
(TEL 03-3249-4651)

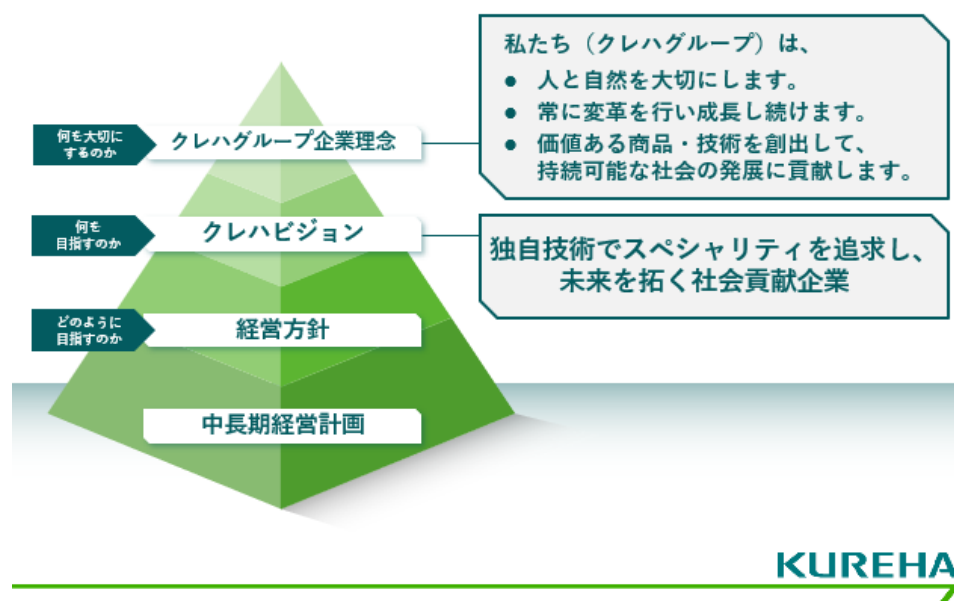
「クレハグループ新中長期経営計画『未来創造への挑戦』」のスタートにあたって

株式会社クレハ（東京都中央区、社長：小林豊）は、「中長期的な企業価値の向上」と「持続可能な社会への貢献」を両立し、サステナビリティ経営を推進してクレハグループを一層発展させるべく、新たに『クレハグループ企業理念』、『クレハビジョン』、2030年度に向けた『経営方針』と「クレハグループ新中長期経営計画『未来創造への挑戦』」を策定しましたのでお知らせします。

1. クレハビジョンについて

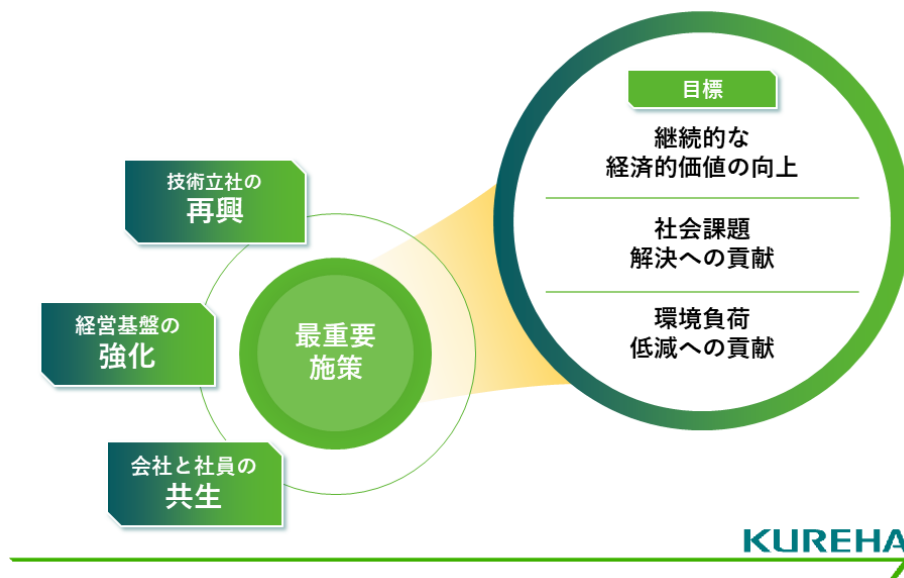
世界は、新型コロナウイルスによるパンデミックを経験し、国家間の緊張と紛争は拡大し地政学的リスクが高まり、人・モノの移動の制限、分断が生じるなど、経済・社会環境に大きな変化が生じています。また地球環境の変化により気候変動や自然災害が増大し、カーボンニュートラルの実現やエネルギーおよび食糧の確保、水資源や生物多様性保全のための環境負荷低減など、持続可能な社会の実現に向けた企業の貢献が求められています。

当社はこうした経営環境の変化に対応すべく、企業理念をクレハグループ企業理念に改訂するとともに、クレハビジョン（何を目指すのか）を『**独自技術でスペシャリティを追求し、未来を拓く社会貢献企業**』と決めました。



2. 経営方針について

クレハビジョン（何をを目指すのか）の実現のために、3つの目標と3つの最重要施策を定めました。



【目標】

継続的な経済価値の向上

- ・「環境・エネルギー」、「ライフ」、「情報通信」の3分野を重点事業分野とし、クレハグループの経営資源を集中して経済価値の向上を目指す。
- ・マーケットインの視点で既存商品の性能向上とバリューチェーンの拡大を図り、コスト競争力をもって顧客への提案力を強化し、収益を拡大する。

社会課題解決への貢献

- ・これまで、3つの重点事業分野で社会貢献してきたクレハグループの商品を、自社による技術開発と外部技術の融合によりさらに進化させ、社会に提供する商品、技術、サービスを拡充する。

環境負荷低減への貢献

- ・2050年度にカーボンニュートラルを目指す。
- ・循環型生産にかなう生産技術の高度化を推進し、廃棄物削減やリサイクルの推進により環境負荷を低減する。

【最重要施策】

技術立社の再興（研究・技術開発力の強化）

- ・新商品の研究開発と環境負荷低減に集中的に資源を投下し、差別化された商品の開発を加速する。
- ・他社との協創・協業、M&A等を通じ自社保有技術と外部技術の融合を図り、新規事業を創出し拡大する。
- ・成長事業の生産体制の構築を迅速に進めるとともに、環境負荷低減に向けた生産技術力、エンジニアリング力を強化する。

経営基盤の強化

- ・サステナビリティ経営を推進する組織の強化と、執行体制の効率化、リスクマネジメントの強化等を継続的に実施する。
- ・クレハグループの経営資源を有効活用し、強固な連結事業基盤を構築する。
- ・顧客・社会の潜在ニーズと研究開発、製造、営業をつなぐバリューチェーンの連携により、経営の高度化を実現するデジタル化戦略を推進する。

会社と社員の共生

- ・社員の『働きがい』と『ミッション』を調和、融合し、社員と会社がともに成長を目指す。
- ・会社と社員のコミュニケーションを充実するとともに、挑戦する社員を登用する。
- ・社員の多様な価値観や立場を尊重し、働きやすい職場環境を整備するとともに、障がい者の就労機会を積極的に提供し自立を支援する。

3. 「クレハグループ新中長期経営計画『未来創造への挑戦』」（2023～2030年度）の概要

【2030年度のありたい姿】

- ・「環境・エネルギー」、「ライフ」、「情報通信」の重点事業分野で、独自の技術により差別化された商品・技術を提供し、お客様の満足を得て、「経済価値」を示す業績が向上している。
- ・環境および社会課題解決に貢献する商品・サービスを提供し「社会価値」が増大している。
- ・クレハグループのCO₂排出量が削減され、事業から生じる環境負荷が低減されている。
- ・会社は社員の多様な価値観を尊重し、社員のエンゲージメントがより向上している。

【2030年度の定量目標】

売上収益	2,800億円
営業利益 (%)	350億円 (12.5%)
ROE	9%以上
エネルギー起源の CO ₂ 排出量削減	2013年度比30%以上
廃棄物ゼロエミ率*	1.5%

*廃棄物ゼロエミ率：産業廃棄物の最終（埋立）処分量÷総発生量

【連結業績】

(単位：億円)

	2025年度計画	2030年度目標
機能製品	1,000	1,700
化学製品	300	340
樹脂製品	400	420
建設・その他	300	340
売上収益	2,000	2,800
営業利益	250	350
親会社の所有者に 帰属する当期利益	180	250
減価償却費	135	230

【キャッシュアロケーション】

2030年度までに累計2,500億円の投資を実施します。

	金額 (億円)	
生産能力増強	2,000	LiB バインダー向け PVDF 新工場他、機能製品事業が中心
研究開発&新事業	300	新事業開発・スタートアップへの投資、M&A、研究開発設備充実
環境負荷低減	100	CO ₂ 排出削減および廃棄物低減対策
DX 投資	100	基幹業務システムのグループ内統合、製造・研究のプロセス変革

【株主還元】

利益の配分については、将来の事業展開に向けた積極投資に資する内部留保を充実させつつ、安定的な配当を基本方針とし、目標配当性向を30%以上とします。加えて、自己株式の取得による総還元性向50%以上を目標とし、2025年度末までの3年間に累計200億円程度の自己株式の取得を行い、株主の期待に応えます。

【研究・技術開発の主要テーマ】

分野	主要テーマ
環境・エネルギー	・PVDF、PPS等の機能樹脂の性能向上、環境負荷・製造コストの低減 ・航空宇宙産業向けの新素材開発と市場参入（軽量化・省エネ） ・カーボンニュートラル実現のための技術基盤確立
ライフ	・持続可能な農業と食料供給に貢献する農薬の継続的な開発・上市
情報通信	・次世代デジタル電子機器向けのPVDF製ピエゾフィルムの用途拡大と市場投入

4. その他

2023年3月期通期業績および2024年3月期通期業績予想の公表（2023年5月12日予定）後、「クレハグループ新中長期経営計画『未来創造への挑戦』』について機関投資家向け説明会を開催予定です。

問い合わせ先：経営企画部 IRグループ 電話03-3249-4651

以上